

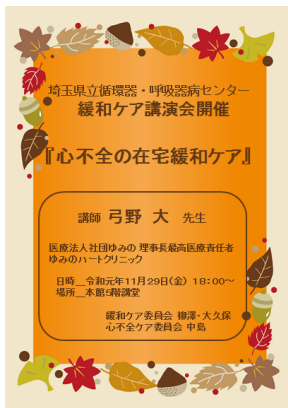
ナース通信

令和2年1月15日発行（第5回）

★埼玉県立循環器・呼吸器病センター★

明けましておめでとうございます。1月になり更に寒くなってきてインフルエンザも流行していますが、体調はいかがでしょう？内定者の皆さんは国家試験まであと少し！追い込み時期でしょうから、風邪をひかないよう体調管理に気を付けてください。第5回のナース通信は、内定者の皆さん、これから埼玉県立病院で働こうとしている皆さんに、循環器・呼吸器病センターの近況をご紹介します。

循環器・呼吸器病センターでは毎年開催される緩和ケア講演会において、今年度は心不全の緩和ケアをテーマに取り上げて、ゆみのハートクリニックの最高医療責任者の弓野大先生を講師としてお招きして講演していただきました。近年、医療の発展により高齢者は増加し、2035年には心不全患者が130万人にも増加することが予測され、「心不全パンデミック」という言葉で大きな問題になっています。ゆみのハートクリニックでは、患者中心に多職種でチーム医療を推進し、在宅の心不全医療に先駆的に取り組んでいます。在宅中心の医療が必要とされる中で、今回の講演は心不全患者に携わる当センターの看護師にとってとても学びとなった内容でした。高齢の心不全患者がその人らしく少しでも長く在宅で過ごせるように、当センター看護部では埼玉県北部地域のネットワーク作りを目指し、担当医師と協力して活動しています。慢性心不全看護認定看護師を中心に、県北部の末期心不全患者の緩和ケアの充実を図っていきたくと考えています。



◇新人看護師の様子◇

夜勤のトレーニングを重ね、本格的に独り立ちへ向けて最終段階に進んでいます。そして、救急看護Iの研修が終了し、実技試験・筆記試験を経て、全員修了認定を受けることができました。日勤業務でもたくさんのことを一人でできるようになり、少しずつ看護師の仕事と環境に慣れてきました。不安いっぱいな表情から、ほんの少し自信がついた元気な表情に変化しています。

